

29 刑法犯認知・検挙件数

単位：件

年 月	総 数 (認知件数)	検 挙 件 数						検 挙 件 数
		凶 悪 犯	粗 暴 犯	窃 盗 犯	知 能 犯	風 俗 犯	そ の 他	
平 成 8 年	9,371	30	182	8,436	460	101	162	5,465
9	8,763	62	208	7,906	340	73	174	5,474
10	10,304	43	178	9,445	330	91	217	5,650
11	11,376	91	218	10,426	279	91	271	5,373
12	12,804	60	253	11,512	215	115	649	3,647
平成12年 4 月	933	3	28	849	13	12	28	163
5	1,013	2	22	906	20	6	57	297
6	1,133	2	28	1,000	19	15	69	532
7	1,263	1	31	1,140	14	4	73	284
8	1,257	8	25	1,146	7	10	61	228
9	994	2	18	891	7	12	64	243
10	1,418	11	29	1,256	40	8	74	676
11	1,135	10	21	976	12	28	88	243
12	1,068	5	16	957	19	9	62	221
平成13年 1 月	764	3	11	644	23	5	78	210
2	900	5	16	794	16	17	52	228
3	1,064	6	34	930	18	3	73	256
4	1,244	5	30	1,054	36	6	113	291
資 料 出 所	石川県警察本部							

30 火 災 発 生 状 況

年 月	出 火 件 数					焼損棟数	り災世帯	死 者	負傷者	損 害 額	焼 損 面 積		焼損車両数
	総 数	建 物	林 野	車 両	そ の 他						建 物	林 野	
平 成 8 年	420	246	48	61	65	333	228	12	56	1,298,755	13,838	1,810	69
9	365	228	34	43	60	323	250	7	53	1,011,768	15,268	574	48
10	327	206	21	51	49	287	196	28	52	849,781	15,392	385	77
11	379	226	24	69	60	290	209	17	52	871,464	15,635	484	68
12	424	217	33	68	106	282	165	18	51	898,751	11,791	643	71
平成12年 4 月	42	17	6	3	16	20	10	3	1	22,600	815	124	3
5	31	20	2	5	4	30	17	-	3	52,053	749	6	6
6	24	14	1	3	6	22	7	1	2	42,075	837	8	3
7	44	15	5	11	13	18	10	-	8	45,315	977	136	11
8	62	21	13	4	24	32	16	-	5	105,319	1,102	152	4
9	42	12	4	6	20	16	7	1	1	137,460	1,011	211	6
10	23	18	-	4	1	19	14	-	2	91,965	697	-	5
11	25	16	-	6	3	19	13	4	8	107,948	1,151	-	6
12	35	21	-	4	10	24	13	2	4	62,000	923	-	4
平成13年 1 月	23	21	-	1	1	30	16	-	1	90,524	1,310	-	1
2	21	16	-	3	2	17	26	-	3	7,157	235	-	3
3	40	28	2	2	8	41	16	4	10	907,357	10,708	16	2
4	85	21	33	7	24	31	33	2	5	121,704	1,868	1,400	7
資 料 出 所	消防防災課												

(注) 「焼損棟数」—全焼・半焼・部分焼含む。「り災世帯」—全損・半損・小損含む。「損害額」—建物・林野・車両・その他含む。

統計 豆 辞 典

第 3 次産業活動指数

指数は、各種の統計を加工して比較しやすい比率の形にしたもので、サービス業についても、「第 3 次産業活動指数」が作成されています。

第 3 次産業活動指数は、第 3 次産業に属する業種の生産活動を総合的にとらえることを目的とした指数であり、総合指数は個別業種のサービス（役務）の生産活動を表す系列を、各業種の相対的重要度を示す尺度（付加価値額）をウェイトとして総合したもので、毎月公表されています。

現在では、第 3 次産業の経済に占める地位が、付加価値額ベースでも全産業の約 3 分の 2 を占めるに至っており、第 3 次産業活動指数は景気動向をとらえる上で鉱工業生産指数を補完しうる、あるいは対置しうる指数として広く認識されてきています。